

# 第1回行政改革プロジェクトチーム会議

日時：令和7年4月28日（月）  
13:00～13:30

場所：第4応接室

1. 開会
2. あいさつ（副知事）
3. 取組説明
4. 意見交換
5. 総括コメント（副知事）
6. 閉会

# プロジェクトチームの概要

副知事をトップとする行政改革プロジェクトチームを立ち上げ、部局横断的にデジタル化を含めた行政改革をより一層推進する。

## 設置目的

簡素で効率的な組織づくりを目指して先進的に取り組んできたデジタル技術の導入・業務効率化、多様な主体との連携等の効率的な行政運営をより一層進め、複雑化・多様化する課題に対応するため、行政改革を推進する。

## PTの構成

**チーム長**：副知事

**構成員**：総務部、令和の改新戦略本部、会計管理部

**事務局長**：行政体制整備局長 兼 総務部参事監（デジタル県庁改革推進担当）

## 今後のスケジュール

8月 第2回会議（進捗確認）

1月 第3回会議（今年度の成果とりまとめ、来年度以降の対応検討）

# 具体的取組（案）

## デジタル県庁改革

### ■ 具体的取組(案)

- ✓ 行政手続きに係るオンライン提供原則化の推進、電子契約の拡大推進
- ✓ 業務適正化等に向けた更なるDX導入

■ 取組牽引所属 行財政改革推進課、デジタル改革課、会計指導課、政策法務課

## 業務プロセス改善・業務効率化

### ■ 具体的取組(案)

- ✓ 繁忙所属等のアセスメントによるプロセス改善提案
- ✓ 県庁業務への民間活力の導入
- ✓ テーマ設定を行った全庁的な「カイゼン運動」の実施
- ✓ 職員提案制度(ひらめき提案)の活性化
- ✓ 過去のカイゼン棚卸しの「見直し推進」案件の進捗確認・実施促進

■ 取組牽引所属 行財政改革推進課

デジタル化  
推進による  
ミスの削減

無理・ムダ  
撲滅による  
県民・職員  
双方の負担  
軽減

## 県出資法人の資金運用に係る見直し

### ■ 具体的取組(案)

- ✓ 資金運用ガイドラインの策定、県一括運用に向けた検討

■ 取組牽引所属 行財政改革推進課、会計指導課

# デジタル県庁改革

## 行政手続きに係るオンライン提供原則化の推進、電子契約の拡大推進

### 今後の進め方（実施イメージ）

- 総合戦略のKPIである「主要な行政手続のオンライン提供の割合100%」（R9年度末）の達成に向け、庁内実態調査を行った上で、県民や事業者の視点から優先順位をつけながら、年次計画を立てて手続きをオンライン化（業務フローや様式の見直しを含む）を加速
- 電子申請に関する職員向け研修や相談会の実施と活用周知
- アナログ規制見直しの更なる推進

## 業務適正化等に向けた更なるDX導入

### 今後の進め方（実施イメージ）

- 課題、見直し候補の洗い出しを行い、事務におけるデジタル技術の活用、自動化等によるミス撲滅手法について検討
- その他制度そのものの見直しを検討

#### （参考：令和5年度定期監査で指摘のあった主な事例）

- ・ 納入期限が適正に設定されていなかった
  - 納入期限は原則20日、歳出戻入は10日
- ・ 現金や出納員管理口座等による歳入金の払込が遅延
  - 払込期限は原則7日以内、累計5万円に達した場合はその日の翌々日まで
- ・ 督促状の未発行や発行遅延

# 業務プロセス改善・業務効率化

## 繁忙所属等のアセスメントによるプロセス改善提案

### 今後の進め方（実施イメージ）

- 慢性的に時間外勤務の多い所属を中心に現状業務のヒアリング等を行い、総務部が業務改善提案を実施（プロセスの見直しやアウトソーシング、人員配置・分担の見直し等）

### 取組例

- 時間外勤務が多く、職員の多忙感が強い児童相談所の業務改善に向けて、人事企画課と行財政改革推進課が合同で訪問し、現場職員にヒアリングを実施。その上で現場職員の課題認識を整理の上、総務部として改善提案（夜間休日電話対応の外部委託化等）を実施（R6）

## 県庁業務への民間活力の導入

### 今後の進め方（実施イメージ）

- 民間提案事業サポートデスクを通じた「県課題提示型」の更なる活用推進
- PFS（成果連動型業務委託）導入を含む業務の外部委託化の推進

### 取組例

- 全庁から地域活性化や県の課題解決につながる行政テーマを募集。庁内から応募のあった「ひきこもり等孤独・孤立対策」等を行政テーマとして民間事業者に対し事業提案を募集した
- 高齢者の認知症の発症リスクを減少させるため、オンライン認知症予防教室等を実施する事業に対し、成果指標（参加者継続率）を導入。成果に連動した支払割合を設定し、委託料を支払い

# 業務プロセス改善・業務効率化

## テーマ設定を行った全庁的な「カイゼン運動」の実施

### 今後の進め方（実施イメージ）

- 申請書等で求めている添付書類の削減、規則・要綱等で定める基準日数の緩和等、県民・職員双方の負担軽減につながるテーマを設定し、集中的に見直しを推進

## 職員提案による事業・プロセスの見直し

### 今後の進め方（実施イメージ）

- 「ひらめき提案」の活用促進に向けた更なる職員への周知
- 事業等の廃止を念頭においた「カイゼン棚卸」を徹底

### 取組例

- 職員から「ひらめき提案」により、知事記者会見で使用していたパネルをディスプレイ化  
⇒ パネル作成経費・作成業務削減に繋がったほか、最新の情報更新での配信が可能となった
- 発表会形式の「カイゼン発表会」を廃止し、事務局を中心に優良事例を数事例選抜し、投票を事務的に実施する方式に変更  
⇒ 年末繁忙期の時間と労力の削減につなげた

# 県出資法人の資金運用に係る見直し

公共性が高く、地域における住民の暮らしを支える事業を行っている県出資法人について、資金運用に係る見直しを通じて、出資法人の効率化・経営健全化を推進。

## <背景>

2月県議会において、県出資法人において、リスクが高い社債への投資や評価損が膨らんでいる法人もある一方、全く資金運用をしていない法人があり、適切な資金管理について議論がなされた

## 今後の進め方（実施イメージ）

### 資金運用ガイドラインの策定

- 出資法人が保有する財産の多くが公金であることに鑑み、県が出資している外郭団体の適切な資金管理を推進するため、資金運用の一定の指針を示す
- 法人の現状を調査するとともに、他の自治体の事例を参考にガイドラインを作成

### 県一括運用に向けた検討

- 他の自治体の実施状況・実施方法等や各県出資法人の意向調査を実施し、希望する出資法人の資金について、県による資金運用の制度創設も検討
- 調査結果を踏まえて、庁内での運用方法検討、スキームを整備